

大分県立芸術文化短期大学
キャンパス整備基本構想

平成27年5月
大分県

1 基本構想の趣旨

大分県立芸術文化短期大学（以下、「芸文短大」という。）は、昭和36年の開学以来、53年の歴史を有し、芸術系の美術科・音楽科と人文系の国際総合学科・情報コミュニケーション学科を併設する、全国唯一の芸術系公立短大として、地域に根ざした芸術文化人材の育成や地域貢献活動に取り組んでいる。

一方、大学を取り巻く環境は、少子高齢化の進行やグローバル化の進展、産業構造の変化などによって大きく変化している。それに伴い、大学に対する社会のニーズもますます多様化しており、平成24年に文部科学省が公表した「大学改革実行プラン」では、新しい大学づくりに向けた改革の推進や、地域再生の核となる大学づくりが求められている。

本県では、先月、県立美術館が開館し、県立総合文化センターと併せた芸術文化ゾーンをネットワークの核として、国東半島芸術祭や別府アルゲリッチ音楽祭、大分アジア彫刻展の開催など、県内各地での芸術文化による地域づくりの機運の高まりが期待されている。

このような状況を踏まえて、現行の芸術系公立短大としての特徴を活かしたうえで、教育研究機能の更なる充実強化を図っていくための企画運営と施設のあり方について、「大分県立芸術文化短期大学あり方検討委員会」を設置して、幅広く検討を重ねて頂き、平成26年3月に報告書が作成された。

この報告書では、「機能充実のための施設整備」として、次のキャンパスコンセプトにより整備を進めていくことが重要とされた。

- ①ゾーニングによる機能的なキャンパスづくり
- ②芸術文化の香り高いキャンパスづくり
- ③自然環境と景観に配慮したキャンパスづくり
- ④芸文短大と芸術緑丘高校が交流・連携を図りやすいキャンパスづくり

また、「魅力を高めるために新設が必要な施設（多機能な音楽ホール棟、芸術デザイン棟、福利厚生施設）」、「機能強化のために改修が必要な施設（音楽棟、美術棟、老朽化施設）」、「交流と自然に配慮した環境整備（交流広場の新設、自然豊かで良好な文教空間の創設）」についても方向性が示された。

この報告書を受けて、施設整備の事前準備として地形測量や文化財調査を行うとともに、収容定員やカリキュラム等に対応する講義室や実習室、練習室等の数量や規模について、芸文短大ときめ細かく協議を重ねてきた。

これらを踏まえ、百年の計に立った長期的な視点により、芸術系公立短大としての優れた特徴を活かし、学生にとって使いやすく魅力的な施設の整備を進めるとともに、芸術文化の進展や地域社会の発展に寄与できる人間性豊かな人材の育成が図られるキャンパスを整備するための基本構想を策定する。

2 芸文短大の概要

(1) 沿革

S36.	4.	1	別府市で「大分県立芸術短期大学」(美術科・音楽科)を開学
S40.	3.	20	(県立別府緑丘高校を県立芸術短期大学附属緑丘高校に改称)
S50.	4.	1	大分市上野丘に全学移転 美術科：絵画、図案、服飾、生活芸術コース 音楽科：声楽、器楽、弦楽コース
S54.	4.	1	美術科：美術、デザイン、生活芸術専攻 音楽科：声楽、器楽専攻
S54.	4.	1	1年制の専攻科(美術専攻科、音楽専攻科)新設
S55.	12.	1	(高校が同一敷地内に移転)
H 4.	4.	1	国際文化学科、コミュニケーション学科の新設 名称を「大分県立芸術文化短期大学」に改称
H15.	4.	1	コミュニケーション学科を情報コミュニケーション学科に改称
H18.	4.	1	設置者を大分県から「公立大学法人大分県立芸術文化短期大学」に移行 (芸文短大の法人化に伴い、県立芸術文化短期大学附属緑丘高校を 県立芸術緑丘高校に改称)
H19.	4.	1	美術科、音楽科に2年制の認定専攻科設置(1年制の専攻科廃止)
H21.	4.	1	美術科：美術、デザイン専攻 音楽科：声楽、ピアノ、管弦打、指揮、理論、作曲コース
H25.	4.	1	国際文化学科を廃止し、国際総合学科を設置

(2) 学科・専攻科の構成及び定員

○学科 (人)

学 科		入学定員	収容定員	
芸 術 系	美術科	美術専攻	25	50
		デザイン専攻	50	100
		計	75	150
	音楽科	65	130	
合 計		140	280	
人 文 系	国際総合学科		100	200
	情報コミュニケーション学科		100	200
	合 計		200	400
総 計		340	680	

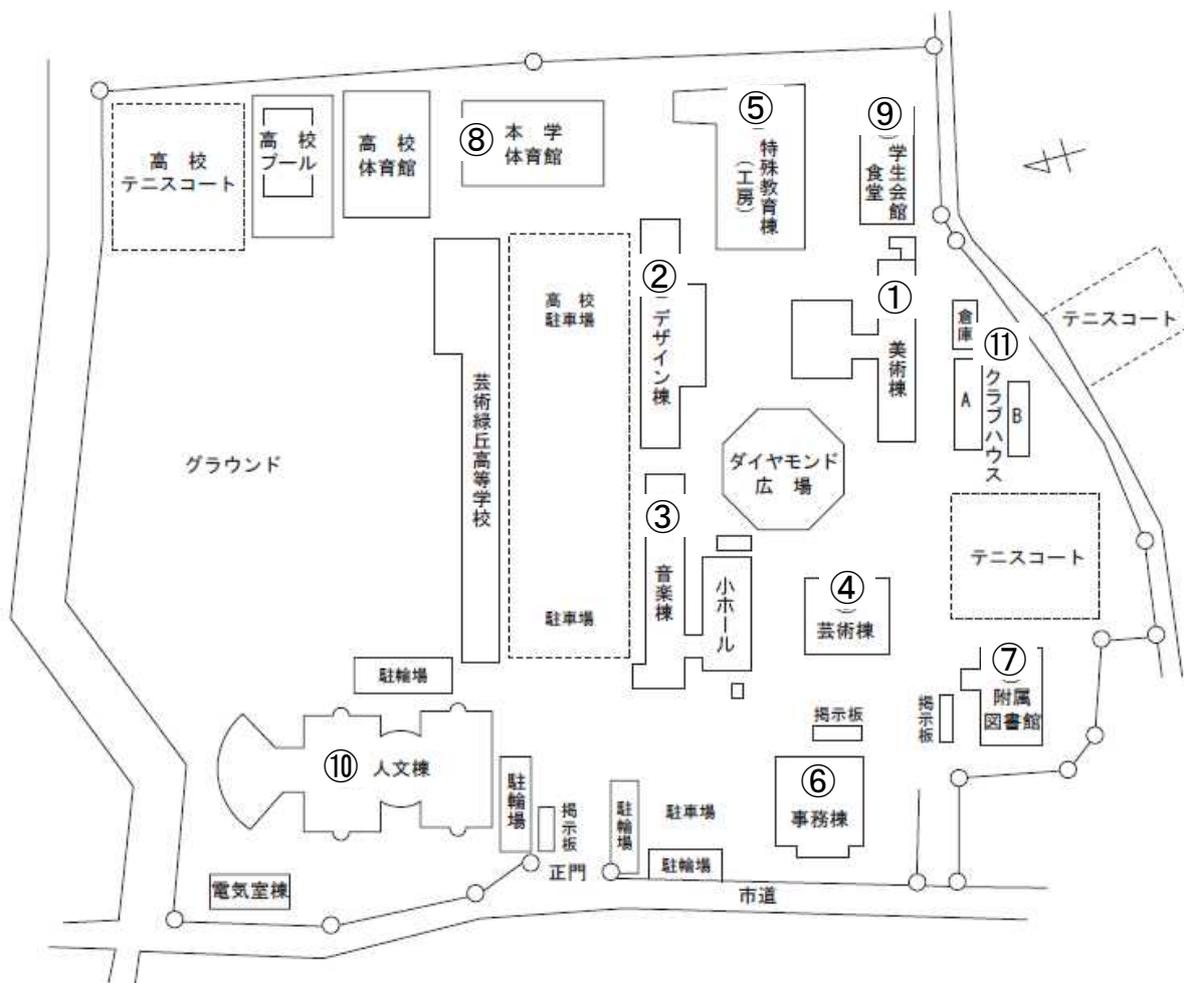
○専攻科 (人)

専 攻	入学定員	収容定員
造形専攻	24	48
音楽専攻	20	40
総 計	44	88

3 施設の現状と課題

(1) 現状

	施設名	構造・階	延床面積(m ²)	建設年度
①	美術棟	RC 2	1,279.75	S49
②	デザイン棟	RC 3	2,174.16	S49
③	音楽棟	RC 3	2,029.65	S49
④	芸術棟	RC 3	1,442.76	S49
⑤	工房	S 1	1,301.06	S49
⑥	事務棟	RC 2	1,253.30	S49
⑦	図書館	RC・S 2	1,052.02	S51(H3増築)
⑧	体育館	RC 2	1,012.00	S52
⑨	学生会館	S 1	455.54	S55(H3改築)
⑩	人文棟	RC 5	7,983.82	H 3
⑪	クラブハウス	S 1	299.17	H 3



(2) 課題

現在の多くの施設は、昭和49年度に整備されたものであり、築後約40年が経過する。この間、平成15年度から17年度に耐震改修工事を実施したものの、防水機能の低下による雨漏り、壁のひび割れのほか、空調、給排水、電気などの設備関係に不具合が生じており、その都度応急的な修繕を行っているが、大規模な改修が行われておらず、老朽化は著しい。

また、音楽科では、平成19年の2年制の専攻科の設置に伴い収容定員が増加しており、美術科では、移転当時にあった服飾コースや生活芸術コースが廃止され、新たにデザインコースが設けられる等、収容定員やカリキュラムが変化しているが、このことに施設の機能が十分対応できておらず、施設自体が狭隘化している。

〈教育内容の変化等に対応していない機能の主な例〉

○美術科、専攻科造形専攻関係（美術棟、デザイン棟、芸術棟）

- ・美術専攻では、共用講義室を絵画実習室として活用しており、十分な実習スペースを確保できていない。
- ・デザイン専攻では、学年や、ビジュアル、メディア、プロダクトの3つのコースに応じた小人数の実習室が必要であるため、現在は大規模実習室を仕切り、異なる講義を同じ部屋で同時に行う等調整しつつ活用している。
- ・印刷実習室は、シルクスクリーンや凸版・凹版印刷等の大型機器を複数備えているため、実習スペースが十分確保されていない。

○音楽科、専攻科音楽専攻関係（音楽棟）

- ・大人数で編成されるオーケストラや吹奏楽、オペラ等において、発表の場や全体及びパートごとに分かれて行う練習の場がない。
- ・専攻科の設置により収容定員が増加したため、個人練習室が不足している。

施設以外の課題として、敷地内全体において低下している排水機能の回復や整備にあたっての文化財調査、幅員が狭小である周辺道路の拡幅などに取り組む必要がある。

4 整備方針

「大分県立芸術文化短期大学のあり方について」報告書に基づき、百年の計に立った長期的な視点を持ち、キャンパス全域にわたって一からの見直しを図り、次の基本的事項とキャンパスコンセプトにより整備を進めて行く。

(1) 整備にあたっての基本的事項

- すべての人にやさしく使いやすいキャンパス
- セキュリティ機能が整った安全・安心なキャンパス
- 南海トラフ巨大地震など災害に強いキャンパス
- Wi-FiなどIT化に対応したキャンパス
- ライフサイクルコストに配慮したキャンパス

(2) キャンパスコンセプトに基づいた整備

①ゾーニングによる機能的なキャンパスづくり

キャンパスを美術、音楽、国際・情報、交流の4つのゾーンに整理し、コース・カリキュラム等に対応するよう各施設の機能を集約する。

【具体的イメージ】

- 芸術系と人文系の併設という特徴を活かした学びのキャンパス
 - ・美術ゾーンは、美術、デザインの講義、実習、制作の場とする。
 - ・音楽ゾーンは、音楽の講義、練習、発表の場とする。
 - ・国際・情報ゾーンは、人文系の講義、実習の場とする。
 - ・交流ゾーンは、学生間等（芸術緑丘高校含む）の交流を深める場とする。

【施設整備への反映】

ゾーン	施設名	整備種別	
美術ゾーン	芸術デザイン棟	建替	芸術棟及びデザイン棟を解体しデザインの機能を集約
	美術棟	増築	芸術棟を解体し美術の機能を集約
	工房	改修 建替	
音楽ゾーン	音楽ホール棟	新築	芸術棟を解体し音楽の機能を集約
	音楽棟	改修	音楽棟の機能の一部を移転
国際・情報ゾーン	人文棟	—	現行どおり
交流ゾーン	音楽ホール棟(再掲)	—	
	福利厚生施設	建替	音楽ホール棟と一体的に整備
	交流広場	新設	

②芸術文化の香り高いキャンパスづくり

美術や音楽の教育・創作活動が日々行われている芸術系公立短大の特徴を活かし、芸術文化の香りを感じられる施設や空間、配置に配慮したキャンパスとする。

【具体的イメージ】

- 芸術文化の香り高いキャンパスを象徴する施設
- 屋内外のどこでもアートに触れられ、音楽があふれるなど、誰もが芸術に親しむことのできるキャンパス

【施設整備への反映】

- シンボルロード
 - ・芸術系公立短大にふさわしい空間として、正門から音楽ホール棟までのシンボルロードを整備
- 音楽ホール棟
 - ・芸文短大を象徴する外観
 - ・学生の練習、発表の場として優れたホールであるとともに、ギャラリーを備え、講演会等も開催できる多機能な施設
- 福利厚生施設
 - ・音楽やアートを身近に感じられるよう音楽ホール棟に併設
 - ・隣接する屋外の交流広場と一体的に活用できる配置・構造
- 交流広場
 - ・屋外に適度な広さを持ち、明るくフラットで開放的な緑の広場を整備
 - ・芸術系、人文系の学生がともに交流し、活用できる広場の整備
- 建物の配置
 - ・交流促進のために交流広場の周りに建物を配置
- 施設等のデザイン
 - ・芸術文化の香りを高く感じられるデザインや色調の採用

③自然環境と景観に配慮したキャンパスづくり

自然豊かな上野の森に近いという立地の特性や、周辺住宅地の景観に調和するとともに、学生の創造力を育むようなキャンパスとする。

【具体的イメージ】

- 自然環境や周辺の景観と調和する施設等のデザイン、空間、植栽
- 学生の創造力を育み、創作意欲をかきたてるような施設等のデザイン、空間、植栽

【施設整備への反映】

- 施設等のデザイン
 - ・自然環境や既存の建物と調和したデザインや色調の採用
 - ・芸術系公立短大らしい、学生の創造力や意欲をかきたてるような施設等のデザイン
- 空間
 - ・自然を感じ、ゆったりと過ごせる空間であるとともに、ゾーン間のスムーズな移動が促される空間の整備
 - ・自然環境と調和した憩いの空間の整備
- 植栽
 - ・芸文短大のシンボルツリーとなる樹木の配置
 - ・既存の樹木を活用しながら近隣の自然と調和するような樹木の配置
 - ・創作活動の題材、画材となるような植栽の整備

④芸文短大と芸術緑丘高校が交流・連携を図りやすいキャンパスづくり

芸文短大と同一敷地内にある芸術緑丘高校との様々な交流・連携が進むようなキャンパスにする。

【具体的イメージ】

- 交流ゾーンを中心に、芸文短大と芸術緑丘高校の交流・連携が進むようなキャンパス

【施設整備への反映】

- 音楽ホール棟と福利厚生施設
 - ・両校がともに活用しやすい施設や設備の工夫
- 建物等の配置
 - ・交流の核となる音楽ホール棟、福利厚生施設及び交流広場を芸文短大と高校の中間に配置
- 両校キャンパスの境界部分
 - ・両校の行き来が容易にできるような空間として整備

(3) 施設毎の整備計画

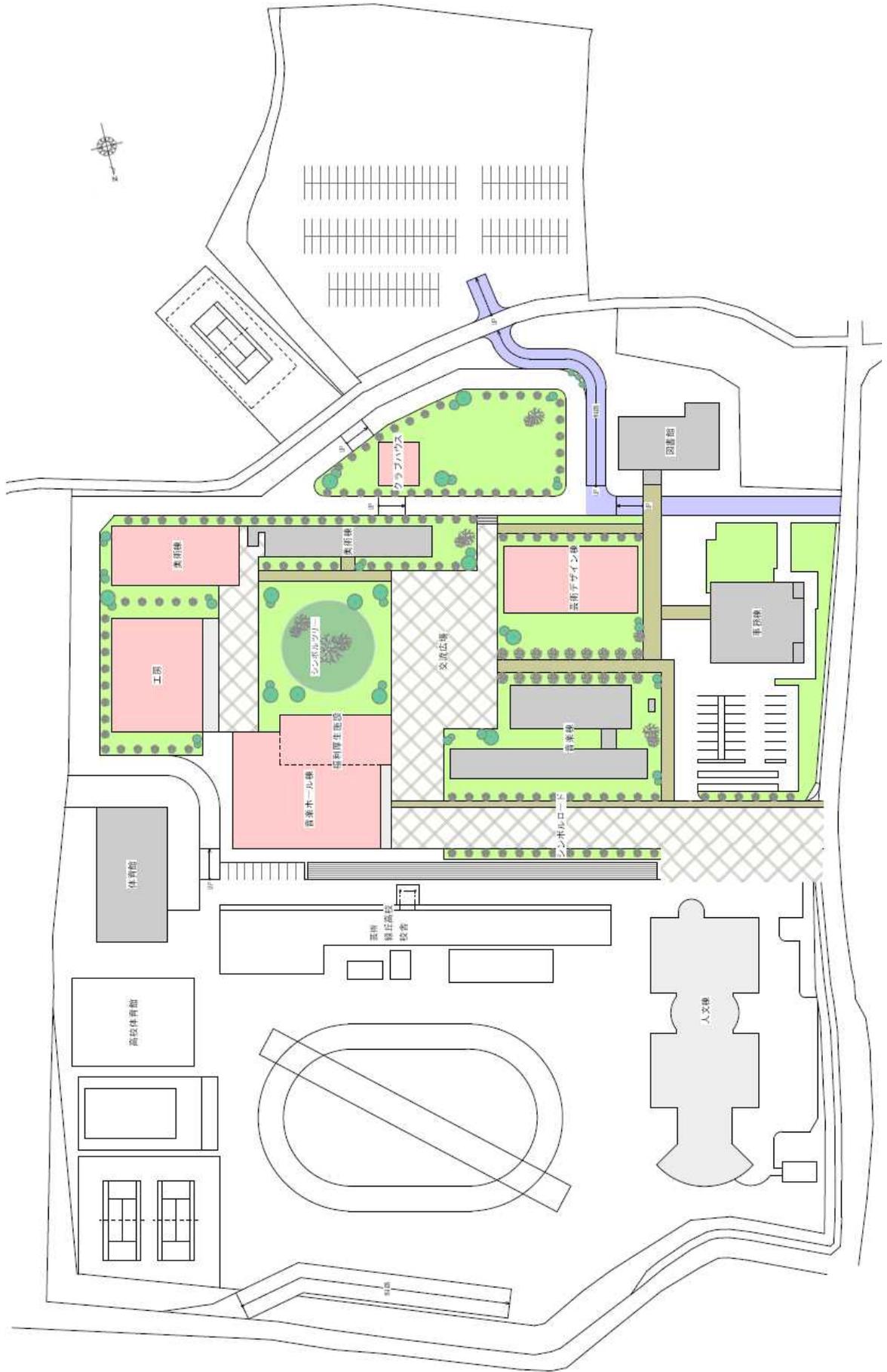
ゾーン	施設等 (概算面積)	種別	主な整備内容	整備のポイント
美術 ゾーン	芸術 デザイン棟 (約3,300㎡)	建替	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン実習室(18室) ----- ・印刷実習室(約200㎡) ----- ・写実実習室 ----- ・共用講義室(2室) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビジュアル、メディア、プロダクトの3つのコースに適した実習環境を備えた施設(現状9室) ○シルクスクリーン印刷等の実習スペースの確保(現状93㎡)
	美術棟 (約1,900㎡)	増築 ----- 改修	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画室(3室) ----- ・版画彫刻演習室 ----- ・絵画実習室(3室) 	○芸術棟の美術の機能を集約
	工房 (約1,600㎡)	建替	<ul style="list-style-type: none"> ・木工金工実習室 ----- ・陶芸実習室 ----- ・染色実習室 	○現行施設と同様に中央に広い作業スペースを設けた施設
音楽 ゾーン	音楽 ホール棟 (約2,000㎡)	新築	<ul style="list-style-type: none"> ・大ホール ----- ・専攻科室兼練習室(3室) ----- ・楽器庫兼練習室(2室) ----- ・アンサンブル室 ----- ・ギャラリー 	<ul style="list-style-type: none"> ○オーケストラ等大人数での練習、発表や、講演会等の開催が可能なホールを有する施設 ○観客席の規模は300席程度(固定席は設けない) ○小規模単位に分かれての練習を可能とする施設 ○学生の美術作品を発表するスペース
	音楽棟	改修	<ul style="list-style-type: none"> ・個人練習室(42室) ----- ・レッスン室(5室) ----- ・合奏教室 ----- ・小ホール 	○個人練習室を増設(現状26室)

ゾーン	施設等 (概算面積)	種別	主な整備内容	整備のポイント
交流 ゾーン	音楽 ホール棟 (約2,000㎡) *再掲	新築	(前頁掲載)	○音楽ホール棟と福利厚生施設は交流の促進を図るため一体的に整備
	福利厚生 施設 (約1,000㎡)	建替	・レストラン ----- ・売店 ----- ・交流コーナー	○福利厚生施設は、ゆったりとしたレストラン、売店の充実とともに、新たに学生間の交流を図るコーナーを整備(現状456㎡)
	交流広場 (約2,500㎡)	新設	・十分な交流スペース ----- ・シンボルツリー	○学生も高校生も利用しやすい位置に整備
その他 の施設 等	シンボル ロード	新設	・正門から正門前広場、 音楽ホール棟へ至る空間	○キャンパスの顔として芸術文化の香りを高く感じられる空間に整備
	事務棟 図書館 体育館	改修	—	—
	クラブハウ ス(約300㎡)	建替	—	—
	外構		・駐車場 ----- ・植栽 ----- ・排水設備	○狭隘なキャンパスを有効活用するため隣接する県有地へ移設 ○既存の樹木と新たな植栽の調和

(4) 施設整備総括表

現況		整備種別	整備後	
施設名	面積(m ²)		施設名	面積(m ²)
デザイン棟	2,174.16	建替 (合築)	芸術デザイン棟	約3,300
芸術棟	1,442.76			
美術棟	1,279.75	増築改修	美術棟	約1,900
工房	1,301.06	建替	工房	約1,600
—	—	新築	音楽ホール棟	約2,000
音楽棟	2,029.65	改修	音楽棟	同左
人文棟	7,983.82	—	人文棟	同左
学生会館	455.54	建替	福利厚生施設	約1,000
事務棟	1,253.30	改修	事務棟	同左
図書館	1,052.02	改修	図書館	同左
体育館	1,012.00	改修	体育館	同左
クラブハウス	299.17	建替	クラブハウス	約300

(5) 施設の配置イメージ



5 整備の推進体制

本構想は、新たな施設の建設や既存施設の大規模改修、交流空間の創出など、キャンパス全体を一体的に整備するものである。

整備にあたっては、設立団体である県と施設の所有者である公立大学法人大分県立芸術文化短期大学が共同で進めることとし、両者で構成する連絡調整会議を設置する。

6 全体スケジュール

平成27年度から	整備の着手 (基本設計、実施設計、仮設校舎建築開始)
平成30年度まで	主要施設整備完了 (芸術デザイン棟、音楽ホール棟、福利厚生施設)
平成32年度まで	その他の施設整備完了

7 規模・事業費

具体的な規模・事業費は、今後、設計を経て決定する。